

床ずれ防止用具ガイド

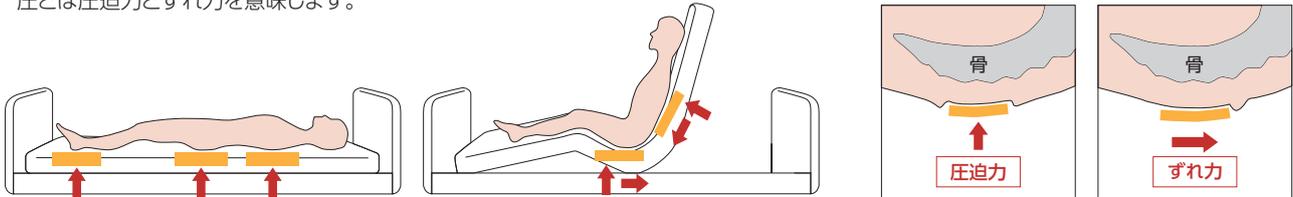


床ずれとは、寝たきりなどにより皮膚表面にかかる圧で血流を阻害され、細胞に十分な酸素や栄養が行き届かず、皮膚が赤みを帯びたり、ただれたりするなど皮膚組織が壊死してしまった状態です。床ずれ防止用具は主に体圧分散で床ずれを防止する福祉用具です。

床ずれが発生するメカニズム

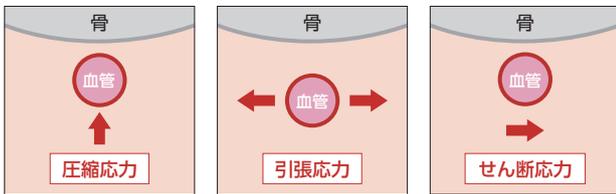
① ご利用者さまの皮膚表面に圧(圧迫力・ずれ力)がかかる

マットレスの上で長時間寝たり、ベッドの背上げ、座位姿勢などによりご利用者さまの皮膚表面には圧がかかります。圧とは圧迫力とずれ力を意味します。



② 圧で血管が変形し血液が流れにくくなる

圧迫力やずれ力が人体組織内部に伝わると圧縮・引張・せん断の各応力が生じ、血管が変形して血液が流れにくくなります。



圧により人体組織内部に生じる応力

- 圧縮応力 ……血管を圧縮するように作用する応力
- 引張応力 ……血管を引き伸ばすように作用する応力
- せん断応力 ……血管をはさみ切るように作用する応力

応力とは物体に力が作用するとき物体内部に生じる抵抗力を指します。

③ 身体への圧の影響による床ずれ(褥瘡)の発生とQOLの低下

圧の影響で血管が変形し血液が流れにくくなると、痛みやしびれ、苦しさなどの不快で危険な状態に陥ります。このまま一定時間放置すると十分な酸素や栄養が行き届かない状態が続く組織が壊死する褥瘡が発生し、QOL (quality of life=生活の質) の低下をきたします。ベッド上で長時間生活するような、全介助または一部介助が必要な人は身体にかかる圧に対して、寝返りや座り直しなど自分の力で対処することが難しいため、体位変換器や床ずれ防止用具などを活用した安全対策が必要です。

OHスケールによる床ずれ発生リスク判定

4つの危険因子を3段階もしくは2段階で判定し、その合計点数で床ずれ発生リスクの判定を行います。

| 評価項目 | 判定 | | | 点数 | 合計点数 | 床ずれ発生リスク | | |
|----------|---------|---------------|----------|----|-------|----------|------|-----|
| | できる: 0点 | どちらでもない: 1.5点 | できない: 3点 | | | | | |
| 自力体位変換能力 | できる: 0点 | どちらでもない: 1.5点 | できない: 3点 | 点 | 0点 | なし | | |
| 病的骨突出 | なし: 0点 | 軽度・中等度: 1.5点 | 高度: 3点 | 点 | | | | |
| 浮腫(むくみ) | なし: 0点 | あり: 3点 | | 点 | | | 1~3点 | 軽度 |
| 関節拘縮 | なし: 0点 | あり: 1点 | | 点 | | | 4~6点 | 中等度 |
| | | | | | 7~10点 | 高度 | | |

床ずれ発生リスクに基づく用具選定の目安(参考)

OHスケールの床ずれ発生リスクをベースとした床ずれ防止マットレスの選定の目安です。実際には商品によってそれぞれ特性があり、対応するリスクも異なりますのであくまで参考としてお考えください。

| 床ずれ発生リスク | 特殊寝台付属品マットレス | | 床ずれ防止用具マットレス | |
|----------|----------------|----------------|--------------|-----------------|
| | 薄手 (10cm程度) | 厚手 (12cm程度) | 静止型マットレス | 圧切替型 エアマットレス |
| なし | ● | | | |
| 軽度 | | ● | | |
| 中等度 | | | ● | |
| 高度 | | | | ● |